

宇宙開発戦略本部会合 第5回会合(議事要旨)

1. 日 時 平成22年8月27日(金) 11:10~11:25

2. 場 所 官邸大会議室

3. 議 事 (司会: 前原誠司 宇宙開発担当大臣)

- 宇宙開発戦略本部長である菅総理大臣から挨拶が行われた。
- 大島内閣府副大臣より、資料1「当面の宇宙政策の推進について(案)」及び資料2「準天頂衛星に関するプロジェクトチームの設置について(案)」について説明が行われた。
- 関係閣僚からの主な発言は以下のとおり。
 - 蓮舫内閣府特命担当大臣より、宇宙分野については、これまで宇宙ステーション補給機などについて事業仕分けの中で取りあげてきており、また、本日の議題の準天頂衛星については、各省独自の仕分けの中で取り上げられ、効率的な運営を求める意見があったと承知しており、かかる意見を今後の宇宙政策に反映してほしいとの発言があった。
 - 川端文部科学大臣より、本日の決定は、宇宙分野の当面の様々な課題に対する政府全体としての方針を概算要求に先立って取りまとめるものであり、極めて意義深いとの発言があった。また、文部科学省として、今般の方針に沿って、はやぶさ後継機や小型固体ロケットなど国民からの期待や利用ニーズの高い開発プロジェクトを推進していくとの発言があった。さらに、今後、宇宙政策を国家戦略として推進していくことが大切であり、宇宙開発戦略本部が宇宙基本計画の見直しなどの議論を行うべきとの発言があった。
 - 藤村外務副大臣より、関係府省と協力して宇宙外交を積極的に推進してきており、特に本年6月、国連宇宙空間平和利用委員会の次期議長に、我が国の堀川宇宙航空研究開発機構(JAXA)技術参与が事実上確定したこと

は大きな成果であったとの発言があった。また、同委員会において、今後ともスペースデブリ低減等の国際ルール策定に積極的に参加していくとの発言があった。さらに、国際宇宙ステーション計画の延長や宇宙システムのパッケージ展開に関わる議論にも積極的に参加していくとの発言があった。

- 自見内閣府特命担当大臣より、宇宙開発への投資に意味があるのかと問う人も多いが、例えば人工透析などはNASAの半透膜の技術が関わっており、国民の実際の利益につながるものであるとの発言があった。また、宇宙分野の研究開発は裾野の広い分野であり、しっかりと研究開発を進めてほしいとの発言があった。
 - 仙谷官房長官より、原点に立ち返り、宇宙開発戦略本部や宇宙開発担当大臣がしっかりとリーダーシップを発揮し、省庁縦割りの弊害への対応をしていくべきであり、官邸としてもしっかりサポートしていくとの発言があった。また、本日の決定は、そのための大きな一歩であり、引き続き各省連携やプライオリティ付けについて進めていくべきとの発言があった。さらに、「はやぶさ」のように、宇宙政策は国民に夢と希望と勇気を与えるものであり、閣僚の皆様におかれては、本部員としての意識を持ってがんばってほしいとの発言があった。
- 最後に、「当面の宇宙政策の推進について(案)」及び「準天頂衛星に関するプロジェクトチームの設置について(案)」を決定した。その際、前原宇宙開発担当大臣より、今回の決定を受け、今後、年末に向け、平成23年度予算政府原案への反映、重点施策に係る所要の宇宙予算の確保などに尽くしたいところ、節目での本部の開催を含め、各閣僚に御協力をお願いするとの発言があった。

以上